

Stage de mars 2009 - Descriptifs 授業概要

Samedi 21 mars

14h00-17h00

Méthodologie du FLE : Comment enseigner aux débutants

Henri BESSE
(ENS LSH Lyon)

Sachiko TANAKA
(Université Sophia)

教授法のはじめのséanceでは、「教師の仕事と聞いて何をイメージするか・・・」というブレインストーミングのディスカッションを行います。互いに考えを出し合い、それを出発点に、外国語を教えるという仕事を構成する要素について整理していきます。教室のなかで展開していく教師と学習者のあいだのやりとり、そして学習者間のやりとりは、常に変化して二度と同じなりゆきが繰り返されることはありません。そのような「生きた」ものである教室という場にあって、わたしたち教員がどのような役割を果たせば、学習者がそれぞれに学習の糸口をつかむ機会を作り出して積極的に参加し、学習に自分なりの方法で取り組むことができるのでしょうか。(田中幸子)

Quelques méthodes, surtout pour débutants, ont marqué l'histoire de la didactique des langues occidentales : la méthode grammaire-traduction ; la méthode lecture-traduction ; la méthode directe ; la méthode audio-linguale ou audio-orale ; la méthode structuro-globale audio-visuelle (SGAV) ; la méthode communicative. Nous les caractériserons, à partir de manuels qui les appliquent, en examinant les réponses qu'elles apportent aux cinq questions que pose tout enseignement d'une langue étrangère à des débutants : comment la leur présenter ? comment leur apprendre à la prononcer ? comment les aider à comprendre le sens de ses mots et phrases ? comment en enseigner la "grammaire" ? quelle progression d'enseignement vaut-il mieux suivre ? (Henri BESSE)

Méthodologie de l'enseignement de l'oral
(prononciation, écoute, conversation)

鵜澤 恵子
(東京日仏学院)

発音・聞く・話す

特に初級 (A1) の授業でのフランス語の音声面を扱います。
まず、FLE の授業で発音として取り上げる事象を確認し、学習者にとっての困難な点とその解決のしかたを例示します。次に、発音の練習がどのような教室活動に成り得るかを探ります。

最後に、聞き取りや会話の練習のあり方を考えます。学習者の聞く力やコミュニケーション能力は、どのような練習をすることにより伸ばせるのでしょうか。

Méthodologie de l'enseignement de l'écrit
(grammaire, orthographe)

古石 篤子
(慶應義塾大学)

とかく外国語学習の同義語になりがちな「文法」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。「文法」って何でしょうか。そもそも「文法」って必要なのでしょうか、学習者にとって、教師にとって・・・そして、もし必要だとしたら何のためでしょうか。また、「文法」を教室で扱うとしたらどのような方法がありうるのでしょうか。短い時間ですが、第二言語習得理論や外国語教授法の知見を援用しつつ、学習者としての、そして教師としての皆さんの経験にも基きながら「文法」に迫っていきましょう。

時間の許す限り、具体例の分析や教室活動の提案なども行っていただこうと考えています。

Comment enseigner la Civilisation

Patrice LEROY
(Université Keio)

Pour faire un cours de civilisation, déjà faudrait-il s'entendre sur ce mot. Doit-on parler des grandes civilisations ou d'anthropologie à la manière d'un Lévi-Strauss ? De psycho-sociologie ou de politique ? De faits divers ou des mérites comparés entre SFR et NTT-Docomo ? C'est peut-être un peu tout ça, nos sociétés n'étant que la synthèse temporaire d'éléments qu'il nous faut décortiquer en amont pour mieux les percevoir en aval. Mais comment le faire ou plutôt comment le faire faire à nos étudiants ? Je n'ai pas de réponse seulement quelques petits "trucs" bien loin des manuels et autres cours magistraux. Partir, par exemple, de ce que nos étudiants connaissent, les faire travailler en groupe pour les amener à découvrir des choses qu'ils auraient jugées inintéressantes si elles leur avaient été présentées de but en blanc... Bref, les faire réfléchir sur le monde autour d'eux afin qu'ils s'éveillent à l'autre tout en prenant conscience de leur propre altérité. C'est peut-être cela la clef de la réussite et le but d'un cours de civilisation, non ? A suivre... (avec vous) !

Comment enseigner la littérature

平野 隆文
(立教大学)

文学テキストを含め、様々なテキストを教室で読ませる「速読」の授業展開についてお話しします。このメソッドは、青山学院大学文学部フランス文学科（私の以前の勤務校）が開発したものです。それに私なりの工夫を加えた方法をご紹介しますと思います。

外国語のテキストと向き合った途端、知らない単語を片っ端から引いて、「意味」を繋げていく、いわゆる精読形式の学習法だけでは、広義の読解力を身につけるのは困難でしょう。まずは、辞書なしで、易しいテキストの大意を掴ませる練習から始めます。その後、教室で辞書を多少引かせ、大まかな意味を把握させた上で、こちらが準備した設問などに答えさせる授業です。この「速読」形式を、ディクテの練習や「精読」といかに接ぎ木させるか、についても実践的な形式で「実演」してみたいと思います。

語学力は、細かい記憶や作業と、大雑把な意味把握の「両輪」がなければ、なかなか伸びません。今回は「質」よりも「量」を重視した語学教育の実践に触れていただきたいと思います。

Comment utiliser les manuels français

飯田良子
(東京日仏学院)

教科書の活用

ふつう授業では教科書を使います。しかし、教科書が使いにくいと感じた経験はありませんか。教科書を使いこなせるようになることは良い授業のために大切なことです。この séance では、しばしば使いづらいと言われるフランスで出版された教科書を取り上げ、「使いこなす」をキーワードにして、授業での活用の仕方を考えていきます。自分で教科書を選んだり、指定された教科書を理解するためには「教科書分析」が必要になりますが、そのことについても触れる予定です。

Lundi 23 mars

I. 11h40-13h10, 14h20-15h50

Mardi 24 mars

II. 11h40-13h10, 14h20-15h50, III. 16h00-17h50

Pratique de classe

Christelle LE CALVÉ
(Institut franco-japonais de Tokyo)

中村公子
(獨協大学)

I. Préparation du plan de leçon

(Christelle LE CALVÉ、中村公子)

ステージ最終日に行う「模擬授業」の準備のための séance です。模擬授業の教材として扱うものをあらかじめこちらで準備し、stagiairesに配布します。この séance では教案作成、「模擬授業」当日の進め方、注意点、等についてお話しする予定です。また、「模擬授業」は二つのグループに分けて行いますが、各グループのメンバーはこの準備のための séance 内で発表します。

II. Présentation du plan de leçon

(Christelle LE CALVÉ、中村公子+出席可能な講師+運営委員会メンバー)

与えられた教材からそれぞれが組み立てた教案に従って模擬授業を行います。Stagiairesを二つのグループに分け、一つのグループは Christelle Le Calvé が担当し、もう一つのグループを中村が担当します。各グループ9名ずつ、一人あたり15分程度を予定しています。

「模擬授業」を行う順番は前日のséance中に発表します。なお、当日の具体的な進め方は前日のséanceで説明します。また、当日は都合のつく講師や運営委員会メンバーもどちらかのグループに、学生たちと共に参加してくれることになっています。

(担当者から一言)

この模擬授業に参加してくれる学生たちと一緒に、他の受講生の方々や出席している講師たち、スタージュ運営委員会メンバーの方たちを学習者に見立てて実際に授業をしてみましょう。実際に教壇に立っている方も、まだ教えていない方も、たとえ短い時間でも人前で授業をするのは不安なものです。でも、怖がらないでください。学習者役の講師たちや委員会メンバーは、皆さんがそれぞれに「自分らしさ」をより出せる授業にするために心から応援しています。他の人と比べたり、授業評価をするためのものではありません。

III. Mise en commun

(Christelle LE CALVÉ、中村公子+出席可能な講師+準備委員会メンバー)

この最後のséanceでは、stagiairesの模擬授業を終えての感想や反省、また実現が困難だったことなどをざっくばらんに話し合しましょう。参加している講師たちや委員会メンバーの経験に基づく貴重なアドバイスやテクニックが聞き出せるかもしれません！また、それまで自分では気づかなかった様々なことについてのコメントも受け取られることでしょう。それは時として自分の意図したこととは違うことかもしれません。

授業には個性が反映されますが、その授業を観察する側についても同じことが言えます。受け取り方は個人によって差があります。それは各自の持つ価値観や考え方の違いから当然のことです。従って、寄せられるコメントは様々でしょう。ある人にとっては「良い」と思われることが、別の人には「物足りない」と思われるかもしれません。でも、これは実際の授業で「ある学生（生徒）には。。。というのと同じことです。大切なのは、日頃、「自分では気づかないことを知ること」です。「とらえ方」は個人の数と同じだけあります。そういうコメントは決して決定的なものではありません。受講者の皆さんが、このスタージュ後（あるいは、もっと先の将来）、フランス語教育に携わっていかれる時の参考材料として（今回のコメントを活かして）いただければ幸いです。Bonne continuation !

Évaluation

Véronique CASTELLOTTI
(Université François Rabelais – Tours & Université de Kyoto)

Pratiques d'évaluation :
le CECR (Cadre européen commun de référence pour les langues)
et les portfolios des langues

En partant des 4 catégories descriptives proposées par le CECR (production, réception, interaction, médiation), on réfléchira aux principaux objectifs pouvant être définis en fonction de ces catégories et des besoins des apprenants, selon leur niveau et les finalités de leur apprentissage, afin d'identifier les directions principales et le cadre de l'évaluation. En effet, si le CECR propose des orientations générales, il insiste aussi sur la nécessité, à chaque étape, d'envisager et d'explicitier les caractéristiques pertinentes pour les lieux / publics / actions concernées. Les « échelles » servant de référence à l'évaluation sont alors à adapter et contextualiser ; dans cette perspective, les portfolios des langues apparaissent comme des outils souples et modulables, centrés sur l'activité individuelle, son évolution et sa reconnaissance, qui peuvent être utilisés de différentes façons. On examinera, concrètement, quelques extraits de portfolios existants pour s'interroger sur des usages en contexte et / ou sur la construction d'outils du même type, adaptés à différentes situations.

Utilisation de TICE

國枝孝弘
(慶応義塾大学)

外国語教育はメディアとの深い関連をもって歩んできました。本だけで勉強したという学習者は今はほとんどいないのではないのでしょうか。カセットやCD、ビデオなど、外国語学習にはさまざまなメディアが使われてきました。なかでもコンピュータの教育現場での活用は「パラダイム・シフト」と呼んでもおかしくないほど、学習環境に大きな変化をもたらしています。このアトリエでは、具体的な実践例を紹介しながら、TICE (technologie de l'information et de la communication pour l'enseignement)がもたらす新たな教育の可能性について、みなさんと一緒に考えていきます。

とはいえ、ITの外国語教育への活用は端緒についたばかりですし、e-learningと一口にいても、WEB教材、podcast、遠隔TV会議、LMS(learning management system)など、実に様々です。このアトリエでは焦点をしぼるために、「自律」と「交流」というキーワードから、ITを用いた学習のあり方にアプローチしていきます。

その際にもっとも大事なことは、コンピュータはあくまで「手段」であり、どのような学習目標をたてるかによって、その手段の生かし方は変わってくるという点です。

教育の目的をどこに定め、学習者のどんな力を育てるために、どのようなカリキュラムを設計して、その中でどのようなテクノロジーを使うのか — 教育、学習者、そして学習環境をトータルに考えながら、TICEにしかできないことの見極めをみなさんと行ないたいと考えています。